



Challenges in Work-Family Balance and Support Needs of Japanese Parents with Nursery School-Aged Children

下田, 優子

(Degree)

博士 (保健学)

(Date of Degree)

2024-03-05

(Date of Publication)

2025-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

乙第3439号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100490195>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



学位論文の内容要旨

氏 名 下田 優子

論文題目

Challenges in Work-Family Balance and Support Needs of Japanese Parents with Nursery
School-Aged Children

(保育園児を持つ日本人親のワーク・ファミリー・バランスにおける
課題と支援ニーズ)

背景と目的：仕事と家庭の両立（Work-Family Balance: WFB）の問題は、少子化、過労死、自殺、男女間の不平等、教育問題、家族問題など、さまざまな社会現象と密接に関連している。日本では15歳から64歳までの女性の就業率は2022年に約72.4%となり、男女ともに仕事と家庭の両立の重要性が高まっている。その一方で、職場の理解が得られにくいなどの理由から、男性の育児休業取得率は依然として低く、家事・育児の負担が女性に集中するなど、仕事と育児の両立の難しさが浮き彫りになっている。先行研究では、職場のWFBに影響を与える要因と改善策について、育児休業から復職する際に、「復職後の仕事への不慣れ」「ワークライフバランスの難しさ」「残業ができない」など、共通の復職問題があることが明らかにされている。また、インド人従業員のワークライフバランスを支援するためには、資金援助による保育、職場での託児所の提供、ヘルスケアやカウンセリングセンターなど、職場以外のプログラムの提供がより効果的であることが明らかとなっている。日本における地域保健分野では、働く妊婦のための母親学級の効果について明らかにした研究はあるが、保健師によるWFBの観点からの親支援に関する研究は限られている。親のWFBは親自身の幸福感に影響し、子どもの情緒や行動の問題にも影響することから、保健師によるWFBへの介入は重要である。そこで本研究では、急速に変化する就業環境、子育て環境の中で、保育園児を育てる日本人の親が、WFBを保とうとする時に直面する課題を明らかにし、保健師がこの点でどのようにサポートできるかについて検討することを目的とした。

方法：京都橘大学研究倫理委員会の承認（第20-01号）を得た後、保育園児を育てる日本人の親が直面するWFBの課題と支援ニーズを明らかにするために、質的記述的アプローチを採用した。研究対象者は、現在保育園児を養育している父親または母親で、双方が共働きであることを条件とした。保育園の園長による紹介とスノーボールサンプリングにより保育園児の親7人に、2021年5月から10月にかけて半構造化面接を行った。1回につき約30～60分、合計7回のインタビューを行い、データ収集を継続しても新たなテーマの抽出が認められなくなるまで行った。その内容を逐語録に書き起こし、主題分析を行った。

結果：両親と子どもの年齢中央値はそれぞれ32歳（範囲＝24～37歳）、2.8歳（範囲＝9ヶ月～5歳）であった。母親は6人、父親は1人で、親1人あたりの子どもの数は1人から3人であった。母親が従事していた職業は、公務員、大学教員、美容師、配達員、保育士であり、日本で女性従業員が多い職業を反映していた。

分析の結果、親のWFBに関する課題として、1) 親の育児と仕事の役割の葛藤、2) 制度や社会システムに関する問題、3) インフォーマルサポートの不足、の3つの主要テーマが抽出された。WFBの課題は、妊娠中など家族形成の初期段階から始まり、仕事の復帰後へと時間の経過とともに変化していた。親は出産後の体調の変化に不安を感じ、育

児休業から復職までの期間には、子どもの生活リズムの乱れや、子どもと接する際に苛立ちを感じるなど、親の心境にも変化が見られた。また、親の復職時期が子どもの保育園入園時期と重なり、子どもの予期せぬ体調不良によるスケジュール変更で顧客や同僚に迷惑をかけること、キャリア形成にも影響を及ぼすことに、親は不安と焦りを感じていた。これらのことから、子どもの急激な成長・発達の中で、親の役割を獲得しながら仕事を調整しなければならない状況が、育児葛藤を生じさせやすくさせていたと考えられた。この時期の親への支援策では、親が復職した後の生活の変化に親子ともに適応できるよう、子どもの成長についての情報を親に提供すること、復職後の病気への具体的な対処法について、事前に親と話し合っておくことの必要性が示唆された。また、夫婦間の家事や育児の役割分担がアンバランスなため、WFBにおける多くの課題が母親に集中していることも確認された。このことから、夫と妻の家事・育児の負担を減らすために、保健師が介入し、夫婦間で家事・育児を分担する方法を具体的に提案する必要性が示唆された。この他にも、祖父母世代の就業率の上昇や、晩婚化の影響で祖父母の高齢化が進むなど親族からの育児支援が得られにくいこと、希望する保育園に希望する時期に入園できない保育園の供給体制や、親が WFB に関連する相談をしにくいといった相談環境上の課題が明らかとなった。なお、今回の研究における調査期間は COVID-19 の流行期であったため、結果に一部影響を与えたことは否めない。

まとめ： WFB の課題が生じる要因として、「子どもと過ごす時間がない」「夫婦間の家事・育児の役割分担のアンバランス」「子育てしながらキャリアを積むことが難しい日本の雇用環境」「病児保育を含む保育サービスの不足」「相談体制の不備」「晩婚化に伴う祖父母世代の高齢化」が挙げられた。WFB の課題は時間と共に変化するため、保健師は、親が現在どのような生活状況にあり、どのような問題を抱えているのかを客観的に分析する必要がある。また、この課題を解決するためには、地域の保健師が保育士と連携し、安心して子どもを預けられる体制を整えるとともに、子育て期の親の時間的制約を考慮し、仕事と家庭の両立について相談しやすい環境づくりや、親子支援の場としての保育園の活用が提案された。

(別紙 1)

論文審査の結果の要旨

氏 名	下田 優子		
論文題目	Challenges in Work-Family Balance and Support Needs of Japanese Parents with Nursery School-Aged Children (保育園児を持つ日本人親のワーク・ファミリー・バランスにおける課題と支援ニーズ)		
審査委員	区 分	職 名	氏 名
	主 査	教授	堀 裕一
	副 査	教授	和泉 比佐子
	副 査		
要 旨			
<p>本研究は、急速に変化する就業環境、子育て環境の中で、保育園児をもつ親の Work-Family Balance (WFB) における課題と支援ニーズを明らかにし、保健師による親への支援方法を検討したものである。保育園児の親に半構造化面接を実施し、質的に分析した結果、親の WFB の課題として、1) 親の育児と仕事の役割葛藤、2) 制度や社会システムに関する課題、3) インフォーマルサポートの不足の3つが明らかとなった。WFB の課題が生じる要因には「夫婦間の家事・育児の役割分担のアンバランス」「子育てしながらキャリアを積むことが難しい日本の雇用環境」「病児保育を含む保育サービスの不足」「相談体制の不備」「晩婚化に伴う祖父母世代の高齢化」が挙げられた。WFB の課題と支援ニーズは時間と共に変化することから、保健師は親の生活状況や抱えている課題を的確に捉え、相談しやすい環境の整備をすることや保育士との連携支援の必要性が示唆された。本研究は保育園児の親の WFB の課題を詳細に分析し、今まで明確にされてこなかった地域の保健師による WFB 支援について示唆を得られた点で意義がある。これは、親の WFB 向上を助け親子の心身の健康増進や現在進行している少子化対策にも寄与するものと考えられ、重要な知見を得たものとして価値ある集積と考える。よって、学位申請者の下田優子氏は、博士（保健学）の学位を得る資格があると認める。</p>			
掲載（予定）論文名，掲載（予定）誌，著者名，巻（号），頁，発行（予定）年 Challenges in Work-Family Balance and Support Needs of Japanese Parents with Nursery School-Aged Children, Yuko Shimoda, Miyuki Ishii, Yuichi Hori, Health Vol. 15 No. 6, 2023. DOI: 10.4236/health.2023.156039			